

commons: schola vol. 2
Yosuke Yamashita Selections: Jazz
原典解説



曲名: ベイズン・ストリート・ブルース
アーティスト名: ルイ・アームストロング
アルバム名: ザ・ベスト・オブ・ザ・ホット5・アンド・
ホット7・レコーディングス

演奏者名: ルイ・アームストロング (トランペット、ヴォーカル)
 フレッド・ロビンソン (トロンボーン)、ジミー・ストロング (クラリネット)
 アール・ハインズ (チェレスタ、ヴォーカル)、マンシー・カラ (バンジョー、ヴォーカル)
 ズッティ・シングルトン (ドラム)
 録音: 1928年12月4日 シカゴにて

CD 番号: SICP-5055 ¥1,995 (税込)
 発売元: 株式会社ソニー・ミュージックジャパン インターナショナル

(schola vol.2 CD track 1)

もし、ルイ・アームストロングがいなかったら、「ジャズ」はもう少し長いあいだ、単に一風変わったブラスバンドの粋に留まったものであつたかもしれない——そう思わせるほどの輝かしい力が、彼のホット・ファイヴ&ホット・セヴン時代の歴史的録音には溢れている。サッチモのトランペットと歌声は、複数のラインが交差しながら織り上げられてゆくニューオリンズ・ジャズの対位法的サウンドを突き破り、バンドをくつきりと地と図、バックとソロという関係に分割して、リズムに乗って繰り広げられるインスタウ

ルメンタル・アドリブ・ソロの魅力を全世界に知らしめた。これは1920年代における明らかな画期であり、以後、ジャズ・ミュージシャンはみな、サッチモが敷いたこのラインに従って演奏を行つてゆくことになる。

20世紀最大の芸能者ルイ・アームストロング、愛称サッチモは、その世紀の始まりと同時の1901年に、ニューオリンズで生まれた。律動、旋律、アレンジ、タレントのイメージ、その他……彼はアメリカン・ポピュラー・ミュージックの全領域に決定的な影響を与えたが、サッチモの能力

は単なる一ミュージシャンの粋を超えて、彼は娯楽でもつて「アメリカ」のイメージを他国に伝える外交官として、晩年まで世界中にそのサウンドを運び続けた。

収録曲である「ベイズン・ストリート・ブルース」は、アール・ハインズの弾くチェレスタの響きも美しい、プレ・モダン・ジャズの魅力が凝縮されたトラックである。メロディーを自由自在にシンコペートさせてゆくサッチモのスウィング感、ブルース感を十分に味わっていただきたい。